

研・学 9 条の会ニュース No. 84

2024 年 8 月発行

〒305-0018 つくば市金田 184-1

電話 029-857-3107

(<http://peace.arrow.jp/tsc>)

研・学 9 条の会： 戦争体験を語る会 第 2 弾

－ 山田 実さんのお話し －

学童集団疎開と東京大空襲の記憶

山田 実さんに、学童集団疎開と東京大空襲の体験を、当時の写真と併せて紹介しながらお話ししていただきました。6 月 28 日(金)13 時半～ 小野川交流センターにて、10 人参加

略歴

山田実さんは農業技術研究所で F1 雑種はなぜ優秀なのかという遺伝の研究や遺伝資源の仕事を行っていました。退職後には科技庁の派遣事業などでロシアに計 13 年間滞在した経歴もあります。

山田さんは小学校 6 年のときに山形県温海に学童疎開し、その後東京に戻って東京大空襲に会いました。その時の体験を谷田部小学校の 6 年生に話すという活動を、5～6 年間も続けています。

学童集団疎開の体験



学童疎開先の山形県温海温泉

僕は昭和 6 年の満州事変の翌年に生まれて、戦争の中で育った。サイパンが陥落して空襲が近づいてくると、小学 3 年～6 年生が疎開させられた。両親の田舎に行く人とそうでない人は、集団で疎

開した。僕は 6 年生で 1944 年の 8 月に、山形県の日本海沿岸の温泉場に集団疎開した。翌年 2 月に 6 年生だけ両親のもとに戻ったが、その 10 日後に東京大空襲に遭った。

サイパンが陥落して空襲が近づいてくると、小学 3 年～6 年生が疎開させられた。両親の田舎に行く人と、そうでない人は集団で疎開した。僕は 6 年生で 1944 年の 8 月に、山形県の日本海沿岸の温泉場に集団疎開した。翌年 2 月に 6 年生だけ両親のもとに戻ったが、その 10 日後に東京大空襲に遭った。

学童疎開の要項が作られていて、縁故疎開を原則とし、これにより難しい場合国民学校 3～6 年までの児童については保護者の申請に基づき集団疎開する、宿舎は旅館・寺院など、持参物は寝具・食器など最小限のものなどとなっていた。



僕は東京の江戸川区を離れ、山形県の温海温泉駅から 2km くらいの万国屋という宿に入った。荒れ狂う日本海を見て、大変なところに来たなど

思った。食事は一汁一菜だけど、山形県なのでご飯に不足はなくて、他より恵まれていたようだ。

20 幾つの宿に分宿して、地元の国民学校とは無関係に教育がされていた。一人の寮母さん（20 歳くらい？）に2つの班25人分の洗濯などの世話をしてもらった。万国屋に泊まっている先生が軍隊から帰ったばかりで、軍隊式を強要された。集団生活なので蝨が発生して悩まされた。

東京大空襲の体験

東京大空襲は日本への最初の戦略爆撃である。それ以前は工場や軍隊をねらった戦術爆撃だったが、ルメイという男が3日間に渡るドレスデン空爆の経験をもとに、一般国民を対象にした無差別爆撃に変更した。（ルメイはその後、航空自衛隊を育成したとして勲一等旭日大綬章を受章した）

荒川から西が爆撃の対象になっていたけど、僕の住んでいた町は荒川の東だったので対象にな



っていなかった。庭に出てみると焼夷弾がまるで花火のように落っこちていた。これはいつもと違う大規模な爆撃だった。空襲犠牲者の年齢構成を見ると、兵隊になるような人はごく僅かで、子供や老人が多く被害に遭っている。

爆撃の跡は鉄筋コンクリートでできた建物以外はきれいに平らになっている。焼けた跡は黒くなくて赤い。

「焼けた広さはつくばでいえば高エネ研から林業試験所（現・森林総合研究所）まで入る」と子

どもたち話すと、「は一そんな爆撃が有ったんだ」と得心する。

東京大空襲の後に B29 から「数日のうちに記載してある都市のうち4～5つの軍事施設を爆撃する、アメリカの敵はあなた方ではなく軍部こそ敵です」などと書かれたビラがまかれた。僕も1枚拾った記憶がある。

空襲警報のため卒業式ができなくて簡単な修了証書をももらったけれど、還暦になったときに学校の校長と PTA 役員をやった友人から「今の子どもたちと一緒に卒業式をやるから出で来い」という手紙が来て、還暦の8人が子どもたちと一緒に卒業式をやった。

小学生に話す活動

小学生たちは真面目に聞いてくれて、大変ショックだったようであった。「僕があなた達と同じ6年生のときに体験したんだ」と言うと、真剣に聞いてくれる。

谷田部の小学校でこの話をすると感想文を書いてくれるんです。子どもたちの感想文には毎回返事を書いている。

私は山田先生の話を聞いて、とても大変な思いをしたんだなと思いました。集団疎開や東京大空襲など、今私が想像して想像できません。まるで兵隊さんのような生活にというのにはおどろきました。いきなり生活習慣や住む家が変わるというのは、とても大変だったと思います。私だったらたえられなくなくなってしまったと思います。それだけ大変な経験を聞けて本当に良かったです。もう一度と戦争はしてほしくないです。貴重な経験を本当にありがとうございました。

子どもたちに話をした最後に、ローマのネロの家庭教師だったセネカという人が「正義の戦争よりも不正義の平和」と言ったことに触れる。不正

義でも平和が良いということを彼らは理解してくれる。

以下は、参加者からの発言

- 母は 1933 年生まれ八丈島出身だが、日本軍が決戦のために進駐するので島民は出ていけということで、軽井沢に強制疎開させられた。八丈島からの疎開船が雷撃をうけて乗員全員が死亡するという事件も有ったが、これは関係者は知っていて八丈町史にも書いてあるけど、観光に影響するなどの理由で、2015 年に朝日新聞が報道するまで語られることがなかった。八丈島に進駐した日本軍は一人も死んでいないのに、進駐のために強制疎開させられた島民が死んでいるのは理不尽だ。
- 1945 年の 4 月から中学校に通学するため、総武線で秋葉原まで通っていた。きれいに焼かれていて、電車から東京湾が見えた。
- 一昨年女房と萬国屋にいったら、送迎車の運転手が疎開のことを覚えていて、懐かしく話した。萬国屋の窓からは海が見えるんです。朝になると人がぞろぞろ歩いていて、何だろうと思っていた。宿の人に聞いたら、こちらに炭鉱が有ってそこで働かされている朝鮮人だよ、ということでした。後に温海町の歴史を調べたけど、こういう事が有ったことは書いてありません。町役場に問い合わせたら、記録はないけど町の人に聞いてみるといって調べてくれ、朝鮮人集落が有って炭鉱で働かされていたという証言が得られました。敗戦のとき都合の悪い文書は焼いちゃったんでしょう。
- 親が宇都宮で空襲に遭って空襲の怖さを何度も聞かされた。しかし戦争を知らない私自身が子供の代に何を伝えられるかというと・・・親の体験を説明したことはあるんですけど。同じ 6 年生のときの自身の体験を生の声で伝えているのでインパクトが大きい。
- きちんと授業に取り入れている谷田部小の先生も偉い。プレゼンした内容を書き物にして残していただけたら後から来た人間の参考になる。紹介された参考文献なども蓄積していけたらありがたい。
- 小学校で体験を話すということは、学校が言い出したのではない。市役所に課外授業の面倒を見る部署があって、その人が思い付いたらしい。どうして僕を見つけたかは覚えていないけど、依頼があったので二つ返事でひきうけた。課外授業の担当者が毎年引き継いでいるらしい。他の学校もどうですか、とけしかけてみたけれどそこは難しいようだ。
- 小学 4 年で終戦だったのでいろんなことを体験した。三重県だったんだけど名古屋からの集団疎開も見た。お寺に泊まっていて、ピアノがなかったので音楽の時間だけ私が行っていた学校に来ていた。爆弾が近くに落ちたこともあって、田んぼがすり鉢状になった。まわりに爆弾の破片がザーと落ちる音が忘れられない。焼夷弾が釣り鐘のようになって落ちてくる景色が未だに忘れられない。
- 我が家から荒川の対岸に落ちる焼夷弾を見ていた。花火みたいに焼夷弾が落ちてきたので、二十歳くらいまでは花火が嫌いでしたね。
- 終戦のとき 2 軒先のおじさんが天皇の放送を聞いて「おい負けちゃったんだよ日本は」と言ったとき、電球の光がもれないように掛けた黒布を外して良いんだと思った。
- 父も同じことを言っていた。その日は電気を点けっぱなしで寝たそう。
- 父はキリスト教系の学校、関東学院中学の生徒だった。先生は「この戦争は間違っている」ともろには言えないけれど、軍事顧問の目を盗んでいかに軍事教練をさせないで済ませようかと努力していた。勇気を持ってやっていんだなと言っていた。

学問の自由が危ない！ 学術会議の法人化の動き

学問の自由と独立を危うくする「日本学術会議法の改正」の準備が急ピッチで進められています。

昨年 12 月に法人化が望ましいとする「中間報告」を内閣府の有識者懇談会が出し、それを受けて翌日、内閣府特命大臣は学術会議の法人化の大臣決定を出しました。

それに対して学術会議は「中間報告」の問題点を指摘し再考を要請したのですが、それを受け止める会議さえ開きませんでした。今年の 4 月以降、有識者懇談会の下に「組織・制度」と「会員選考」の二つのワーキンググループを組織し、法案の具体化のための作業が進められてきました。有識者懇談会の岸輝雄座長（東京大学名誉教授）は 7 月 29 日、「個人的には今年中には意見をまとめた」との意向を示しており、年内中にも法案が出され、成立する可能性がでてきました。

法人化案には学術会議を支配する仕組みがいくつも仕掛けられています。例えば、以下の 4 項目です。

- 「選考助言委員会」… 学術会議の選考に外部から助言
- 「運営助言委員会」… 外部から運営に関する重要事項を助言
- 「評価委員会」… 主務大臣が任命する監事、有識者で構成、中期計画を評価
- 「中期業務計画の策定」… 独立行政法人のように中期計画に基づく業務実施機関に

これら仕掛けは、学術会議を政府や財界がコントロ

ールできるようになっており、学術会議の独立性を侵害するものです。

学術会議の光石衛会長は 29 日の記者会見で、私たちの懸念が払拭されないまま、取りまとめが行われれば「学術会議として重大な決意をせざるを得ない」と有識者懇談会で述べました。

とりわけ、次の 5 項目は、「近視眼的な利害に左右されない独立した自由な学術の営みを代表するアカデミーの活動」を阻害するもので、到底受け入れられないこと。

1. 大臣任命の監事の設置を法定すること
2. 大臣任命の評価委員会の設置を法定すること
3. 『中期目標・中期計画』を法定すること（独立行政法人のようなものは認めがたい）
4. 次期以降の会員の選考に特別な方法を導入すること（コ・オプレーションの考え方の逸脱になる）
5. 選考助言委員会の設置を法定すること

指摘した懸念が払拭されるよう、この 5 項目を満たす案も俎上にのせた上で、さらに議論を深めることを強く求めること。と述べました。

この法人化案が実施されると、日本の学術研究体制は完全に破壊され、ひいては日本の社会生活に重大なマイナスの影響を与え、日本の学術研究の国際的な地位が、ますます低下することになるでしょう。

法人化をねらう「日本学術会議法」の改正を止めるために、ご理解とご協力をお願いします。

世話人 手島昌己

2024 年のカンパありがとうございました。

おかげさまで、通帳残高は 44000 円 増加し、会計は 10 万円を超えました。

原稿を募集しています。

日頃の生活の中で感じたこと、ニュースを読んで感じたことなど、短い文章でも構いません、お待ちしております。

手島昌己 : e-mail: amx01837@mail2.accsnet.ne.jp